

# こんぺいとう通信

2008

11

教室のみなさん、こんにちは (^o^)

すっかり寒くなりましたね。教室では、早々と年賀状の印刷を済ませた方もいたりして、月日の流れる速さを実感しています。

さて、皆さんは子どもの頃の記憶って、いつごろまでを覚えていますか？ 私はだいたい4・5歳の頃でしょうか。楽しかった思い出や苦い記憶など、それぞれは断片的ですが、ふとしたきっかけで思い出されることがあります。例えば、こんなのが・・・

\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \*  
あれは5歳ぐらいの頃だったと思うのですが、両親とレストランのようなお店にいた時のこと。その当時はまだファミレスなんてなかったし、貧しかった我が家では、レストランや喫茶店のようなお店に入ることなど、1年に1度あるかないかでした(その時も、親戚の人が誰かと会う用事だか何だかがあったような気がします)

レストランでおやつ、なんて千載一遇のチャンスを逃すわけにはいきません。私は思いっきり豪華なフルーツパフェを注文しました。待つことしばし。ウェイトレスのお姉さんが運んできたパフェは、それはそれは豪華な一品でした。食べてしまうのがもったいないぐらい。それで、上の方のクリームをちびりちびりと舐めていました。クリームだって、生クリームですよ。今でこそ当たり前ですが、当時の我が家で年に1回、唯一口にできたクリスマスのケーキはバタークリーム。一度、食べた後に気持ち悪くなったこともあります。

\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \*  
さて、いつまでも食べないでいるわけにもいかないので、弟や他の大人たちが皆食べ終わるのを待って、それから一気にパフェを平らげよう、と決めました。皆が羨望のまなざしでボクのパフェを見つめる中、

優越感に浸りながらコイツをパクパクと食べるなんて、考えただけでシアワセの絶頂。もうたまらない。

\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \*  
さあ、みなさん食べ終わったようです。ウェイトレスのお姉さんが器を下げに来ました。他のお皿を下げ終わるのをじっと待つ5歳のボク。テーブルの上がきれいになったら、思い切り食べるぞー。ところがその直後、信じられないことがっ!!!

そのお姉さん、何を思ったのか、ボクのパフェの器をむんずと掴むと「お下げしま～す」と言って持って行こうとします。え、ちょ、ちょっと待って。一瞬、何が起きようとしているのか分かりませんでした。だって、器の中にはまだほとんど食されていないアイスやバナナやイチゴたちが、ボクに食べられるのを待っているのですから。あわてて母や父の顔を見たのですが、なぜか何も言ってくれません。「北の国から」の五郎さんだったら、「子どもがまだ食べてるでしょうがーっ」と言ってくれたはずなのに・・・。もちろん、内気な5歳の少年に何も言えるはずがありません。かくして、食べ残されたそのパフェは目の前から消えていったのでありました。

\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \*  
もうあれから40年近くが経つのですが、食べ損なったパフェのおかげで空いた心の穴は、今でも埋まりません。いや、ホントですよ。大人になってから何度もパフェを注文しては食べましたが、あの時に食べられなかった喪失感とは、決して癒されないんですから。実際には、たいして美味しくもなかったのかも知れないんですけどね・・・。今となってはあれが究極のパフェになってしまいました。

でも、今となっては懐かしい思い出。大人になった今、もうそんな悲劇は・・・と思いきや、またもや惨劇は繰り返されたのでした。続きはまた来月(^ ^)/~~~~

